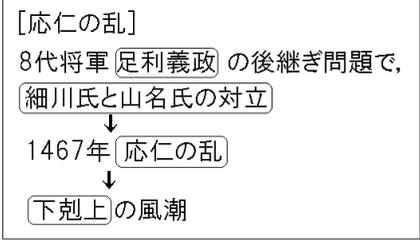


【解説】

強い権力をふるった第6代将軍足利義教の死後、幕府では守護大名間の勢力争いが起こった。1467年、第8代将軍足利義政のとき、将軍のあとつぎ争いと、細川氏と山名氏の対立から、応仁の乱が起こった。(応仁の乱人よむな(1467)しく死んでいく) 戦乱は多くの守護大名をまきこんで11年も続き、京都から全国に広がった。京都は焼け野原になり、将軍は、京都を中心とするわずかな地方を支配するだけとなり、天皇や貴族、寺社などの領地は各地の武士にうばわれた。こうした中で、実力のある者が、力をのばして上の身分の者に打ち勝つ下剋上の風潮が広がっていった。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「応仁の乱」「下剋上」である。「足利義政」「山名氏と細川氏の対立」もよく出題される。



【解答 1】

- (1) 応仁の乱 (2) 1467年 (3) 足利義政 (4) 守護 (5) 細川氏と山名氏 (6) 下剋上

【解説】

織田信長は、1575年の長篠の戦いで武田勝頼を打ち破った。右図の左側の鉄砲を使用しているのが織田方である。信長は川岸に柵を設けて、大量の鉄砲を使って一斉射撃をあげて、当時最強といわれた武田の騎馬軍団を壊滅させた。

[長篠の戦い]

鉄砲を使って、
武田勝頼を破る



織田方 (鉄砲を使っている) 武田方

【解答 2】

- (1) 織田信長 (2) 今川義元 (3)① 室町 ② 足利義昭 (4)① 長篠 ② 左側 ③ 鉄砲 (5)① 安土 ② 樂市・樂座 (6)① 本能寺の変 ② 明智光秀

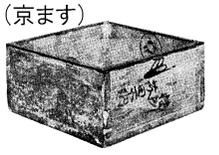
【解説】

豊臣秀吉は、年貢を確実に取るために、全国の田畑の面積、土地のよしあし、耕作者を調べさせ、村ごとに検地帳をつくらせた。これを太閤検地という。収穫高は、全国どこでも同じ大きさの京ます(右図)ではかり、石高(体積)の単位で表すようにした。検地帳に記された農民は、その田畑を耕作する権利を認められたかわりに、定められた年貢を領主である武士に納めることになった。これによって年貢収納が確実になり、荘園領主などがもっていた田畑に関する権利はすべて否定され、荘園は完全に消滅。

※この単元で特に出題頻度が高いのは「太閤検地」である。「石高」もよく出題される。

[太閤検地]

ものさし、ますを統一
石高(体積), 検地帳
荘園が消滅



全国統一を果たした秀吉は、1592(文禄元)年に、明の征服をめざして、諸大名に命じ15万人の大軍を朝鮮に派遣した(文禄の役)。日本の軍勢は、朝鮮の首都漢城(ソウル)を占領して朝鮮北部に進んだが、救援に来た明軍におしもどされた。また、各地で朝鮮の民衆が抵抗運動を起こし、朝鮮南部では、亀甲船を率いて戦った朝鮮の李舜臣の水軍が日本の水軍を破り、日本からの補給路をたつた。

[朝鮮侵略]

(文禄の役・慶長の役)
明の征服, 李舜臣, 有田焼

このため秀吉は、明と講和を結ぼうとしたが、秀吉を日本国王に任命するという明の皇帝の国書に不満を持ち、1597(慶長2)年ふたたび戦いを始めた(慶長の役)。日本の軍勢は苦戦し、1598年、秀吉が病死したのを機に全軍が引きあげた。この2度にわたる侵略をまとめて朝鮮侵略という。朝鮮侵略のときに朝鮮から連れてこられた技術者によって有田焼などの陶磁器が作られるようになった。江戸時代になって、1609年に対馬藩の努力によって朝鮮との国交が回復した。

※この単元で出題頻度が高いのは「朝鮮侵略」「明」「李舜臣」である。

- 【解答 3】(1) 豊臣秀吉 (2) 太閤検地 (3)① 刀狩令 ② 一揆 ③ 兵農分離 (4) 朝鮮侵略 (5) 明 (6) 李舜臣

[解説]

稲作は、平野部を中心に全国で行われている。特に、北海道、東北、北陸の新潟県は米の生産量が多く、日本の穀倉地帯となっている。米の生産順位は、北海道と新潟が1、2位を争っており、3位以下には秋田県、山形県などの東北各県が並ぶ。

野菜の生産は、千葉県や茨城県などの近郊農業の地域や、宮崎県や高知県などの暖かい気候を利用した促成栽培の地域、長野県や岩手県などの冷涼な気候を利用した抑制栽培の地域を中心にさかんである。果樹栽培は、扇状地や台地、ゆるやかな斜面が広がる所でさかんである。りんごは青森県や長野県などの東日本で、みかんは和歌山県や愛媛県などの西日本で、ぶどうは山梨県や長野県などの中央高地に大きな産地が見られる。

畜産は、北海道地方では酪農や肉牛の飼育、九州地方南部の鹿児島県や宮崎県では肉牛や豚、ブロイラーの飼育がさかんである。

※この単元はときどき出題される。

[稲作・野菜・果樹・畜産]
米：北海道、東北、新潟県
野菜：近郊農業、促成栽培、抑制栽培
果樹：東日本はりんご、西日本はみかん
畜産：北海道は酪農・肉牛、九州南部は肉牛・豚・ブロイラー

[解答 4]

- ① 東北 ② 新潟 ③ 近郊 ④ 促成 ⑤ 抑制 ⑥ りんご ⑦ みかん ⑧ ぶどう ⑨ 北海道 ⑩ 九州

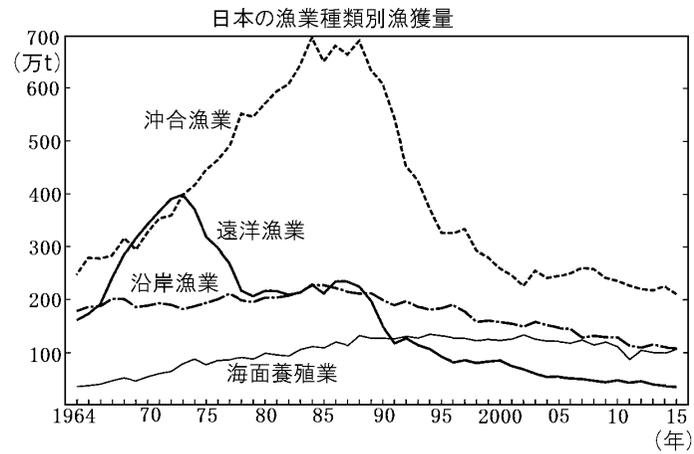
[解説]

日本は世界有数の水産国で、各地に大きな漁港が発展してきた。しかし、各国の排他的経済水域の設定や資源保護などの視点から漁獲量の制限が厳しくなり、遠洋漁業や沖合漁業の漁獲量は減少した。日本の漁業がおとろえ、漁獲量が減ったため、1980年代後半以降、海外からの水産物の輸入が急激に増加した。

これに対し、「とる漁業から育てる漁業へ」という方針の下で、養殖漁業や栽培漁業の成長が期待されている。養殖漁業とは魚や貝などを、網を張った海や人口の池で、大きくなるまで人工的に育てる漁業である。栽培漁業とは卵からふ化させた稚魚や稚貝などをある程度まで育てた後、自然の海や川に放流し、成長してからとる漁業である。

※この単元で出題頻度が高いのは「養殖漁業」「栽培漁業」である。「排他的経済水域」もときどき出題される。

[漁業]
排他的経済水域の設定など
↓
遠洋漁業、沖合漁業の漁獲高減少
輸入が増加
育てる漁業：養殖漁業、栽培漁業



[解答 5]

(1)ア 沖合漁業 イ 遠洋漁業 ウ 沿岸漁業 エ 海面養殖業 (2) 各国が排他的経済水域を設定したため。 (3) 魚や貝などを、網を張った海や人口の池で、大きくなるまで人工的に育てる漁業。 (4) 卵からふ化させた稚魚や稚貝などをある程度まで育てた後、自然の海や川に放流し、成長してからとる漁業。(統計修正)「日本国勢図会 2017/2018」P174

[解答 6]ウ

[解答 7]① ひば ② すぎ ③ すぎ ④ ひのき

[解答 8]輸入木材のほうが安い。

[解答 9]

- (1) 太平洋ベルト (2)A 北陸工業地域 B 北関東工業地域 C 京浜工業地帯 D 京葉工業地域 E 東海工業地域 F 中京工業地帯 G 阪神工業地帯 H 瀬戸内工業地域 I 北九州工業地域

[解答 10](1) 太平洋ベルト (2)① C ② B ③ D

[解説]

第一次産業は、土地や海などの自然に直接働きかけて動植物を得る産業である。農業、林業、漁業などがある。第二次産業は、自然から得られた材料を加工する産業である。製造業、建設業、鉱業などがある。第三次産業は、ものの生産に直接かかわらない産業である。卸売業や小売業などの商業、サービス業(運輸業、金融業、娯楽業、教育、医療、福祉、情報、電気、ガス、水道など)がある。

[産業の分類]
第一次産業：農業、林業、漁業
第二次産業：製造業、建設業、鉱業
第三次産業：商業、サービス業など

先進工業国では第三次産業の従業者の割合が高い。日本では、第三次産業の従業者の割合は約70%を超えている。日本の各産業の従業者の割合は、次のグラフの通りである。

日本の産業別人口の割合(2016年)

第一次産業	3.4%
第二次産業	23.8%
第三次産業	72.8%

(統計修正)「日本国勢図会 2017/2018」P68

※この単元で出題頻度が高いのは「次は第何次産業か」という問題である。

[解答 11]① 1 ② 2 ③ 3 ④ 1 ⑤ 3

[解答 12]A 第一次産業 B 第二次産業 C 第三次産業

[解答 13]① サービス ② IT ③ 介護